

# 淀川製鋼グループ 2025年3月期決算説明資料

2025年5月19日

## 目次

- 1 決算のポイント
- 2 2025年3月期 実績
- 3 2026年3月期 業績予想
- 4 トピックス
- 5 参考

# 1 決算のポイント

## 決算のポイント

### 2025年3月期 実績

- 建築需要が低迷する中、通期業績は前年比で増収増益
- 各種コストが抑えられたことにより、2025年2月に開示した業績予想比では減収増益
- 増益の結果、今期の1株あたりの配当は351円となり、前年の200円と比較し151円の増配

### 2026年3月期 業績予想

- 米国通商政策による世界経済の下振れリスクなどから販売量減少が見込まれ、減収減益を予想
- 配当は中間20円、期末34円、通期54円を予想  
※当社は2025年7月1日を効力発生日として当社普通株式について1株を5株に分割する予定です。  
詳しくは配当のスライドでご説明いたします。

## 2 2025年3月期 実績

## 連結業績概要

(単位:億円(千万円未満切捨))

	当期	前期	増減	増減率	特記事項
売上高	2,084.6	2,039.5	45.0	2.2%	<売上> 台湾SYSCO社の販売量増加など
(売上総利益)	341.4	317.6	23.8		
(販管費)	202.6	197.5	5.0		
営業利益	138.8	120.1	18.7	15.6%	<営業外収益> 投資有価証券売却益の計上など
(営業外収益)	79.3	35.0	44.2		
(営業外費用)	2.7	3.2	△0.4		
経常利益	215.5	152.0	63.4	41.8%	<特別損失> 前期:製品補償引当額79.6億
(特別利益)	0.8	13.5	△12.6		
(特別損失)	9.4	84.7	△75.3		
税引前利益	206.9	80.8	126.1	156.1%	
(法人税等)	56.6	22.1	34.5		
(非支配株主利益)	15.2	14.1	1.1		
親会社株主利益	134.9	44.5	90.4	202.9%	<包括利益> 当期:当期純利益 150億、その他有価証券 評価差額金 △56億、為替換算調整勘定29 億 ほか
(EPS(円/株))	467.03円	154.29円	312.74円		
包括利益	138.5	162.8	△24.3		

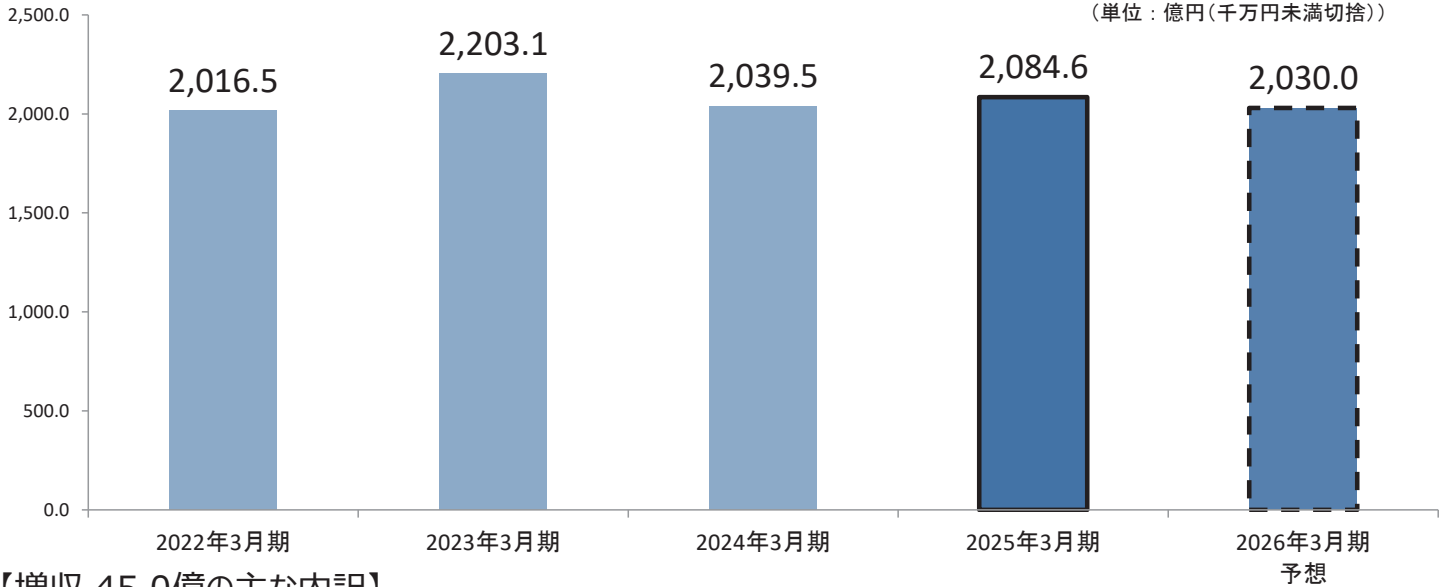
（単位：億円（千万円未満切捨））

連結 （億円）	実績	予想 （2025年2月開示）	差異
売上高	2,084.6	2,090.0	△5.3
営業利益	138.8	131.0	7.8
経常利益	215.5	206.0	9.5
親会社株主利益	134.9	128.0	6.9

【差異要因】

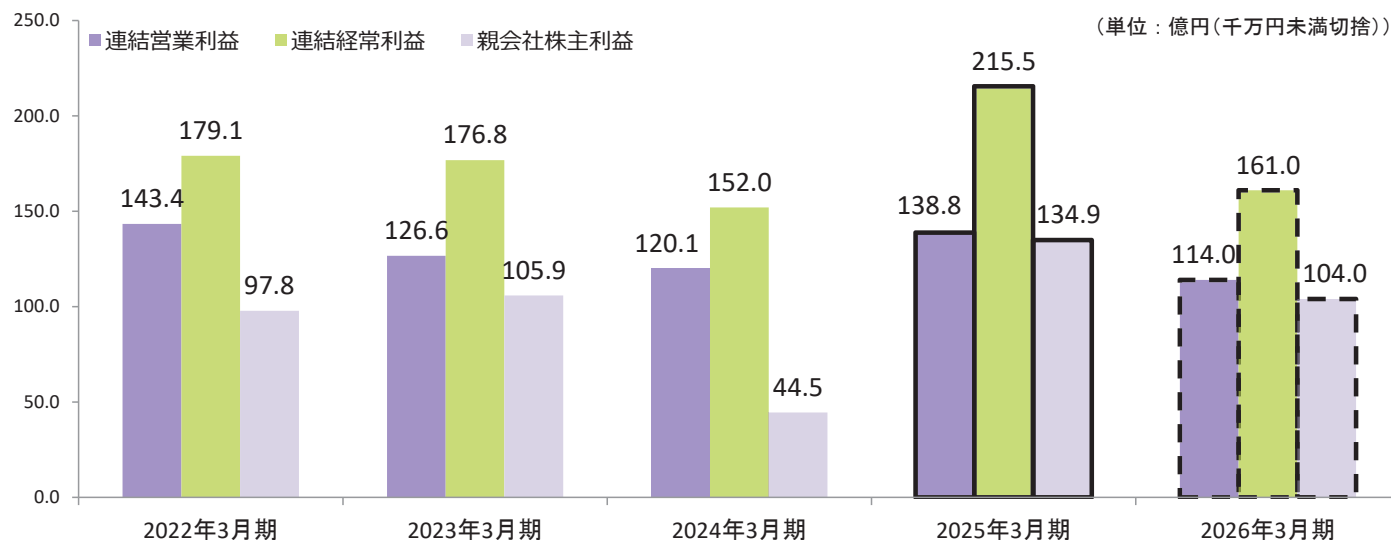
- 営業利益：各種コストが想定より抑えられたため

（単位：億円（千万円未満切捨））



【増収 45.0億の主な内訳】

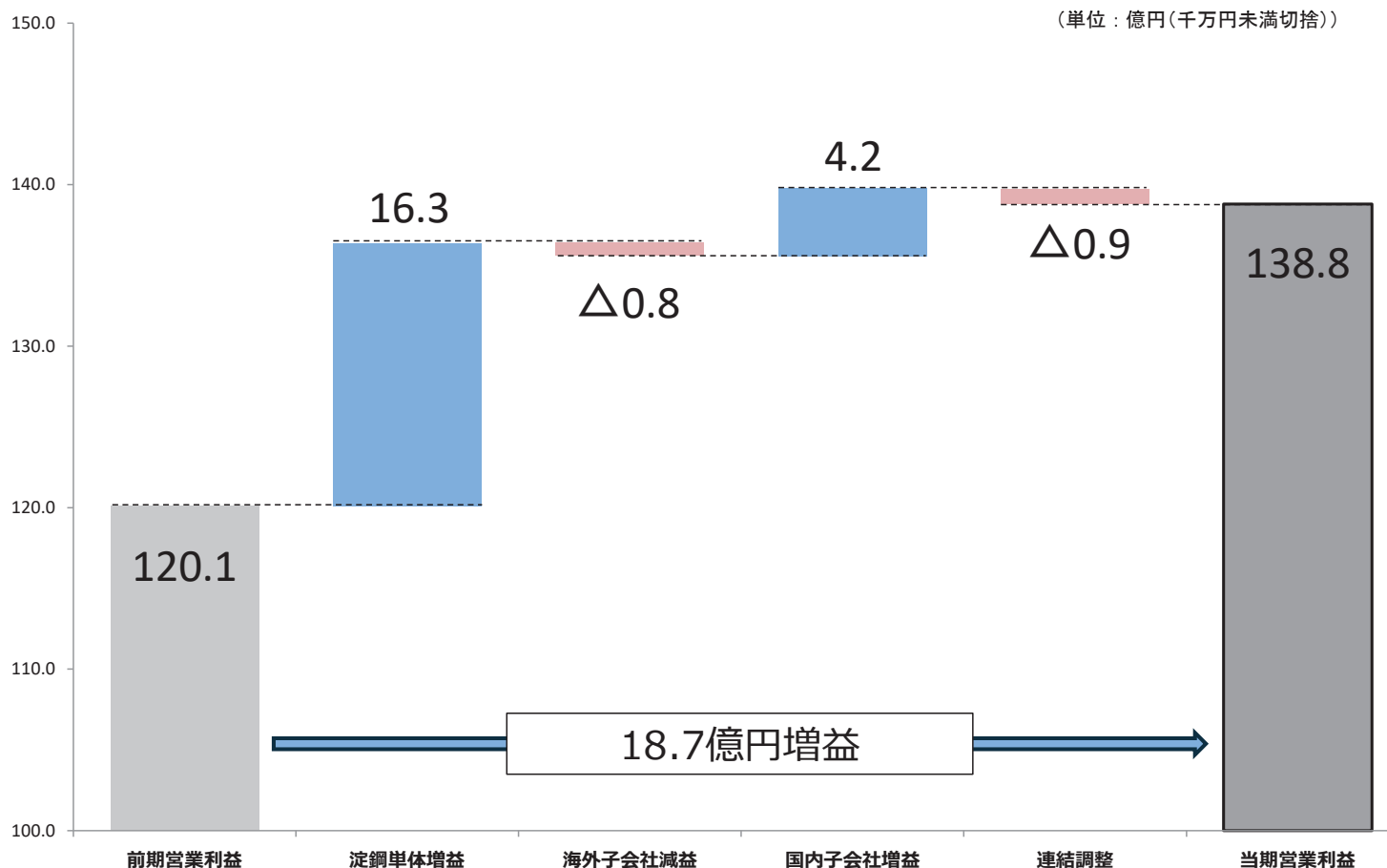
- 淀鋼 △16.4億（1296.6億→1280.1億）  
カラー鋼板の販売量が増加した一方、めっき鋼板の販売量は減少
- 台湾SYSCO社 +85.8億（532.4億→618.3億）  
めっき製品を中心に新たな用途や需要の開拓をし、台湾国内向け・輸出向けともに販売量増加
- 中国YSS社 △19.3億（117.8億→98.4億）  
不動産不況の長期化により、工事物件の中止・延期が相次ぎ販売量は減少
- タイPPT社 △0.1億（46.7億→46.6億）  
2Q以前弱含んでいた主力のエアコン向け販売量が3Q以降回復傾向となり、通期の販売量は微減

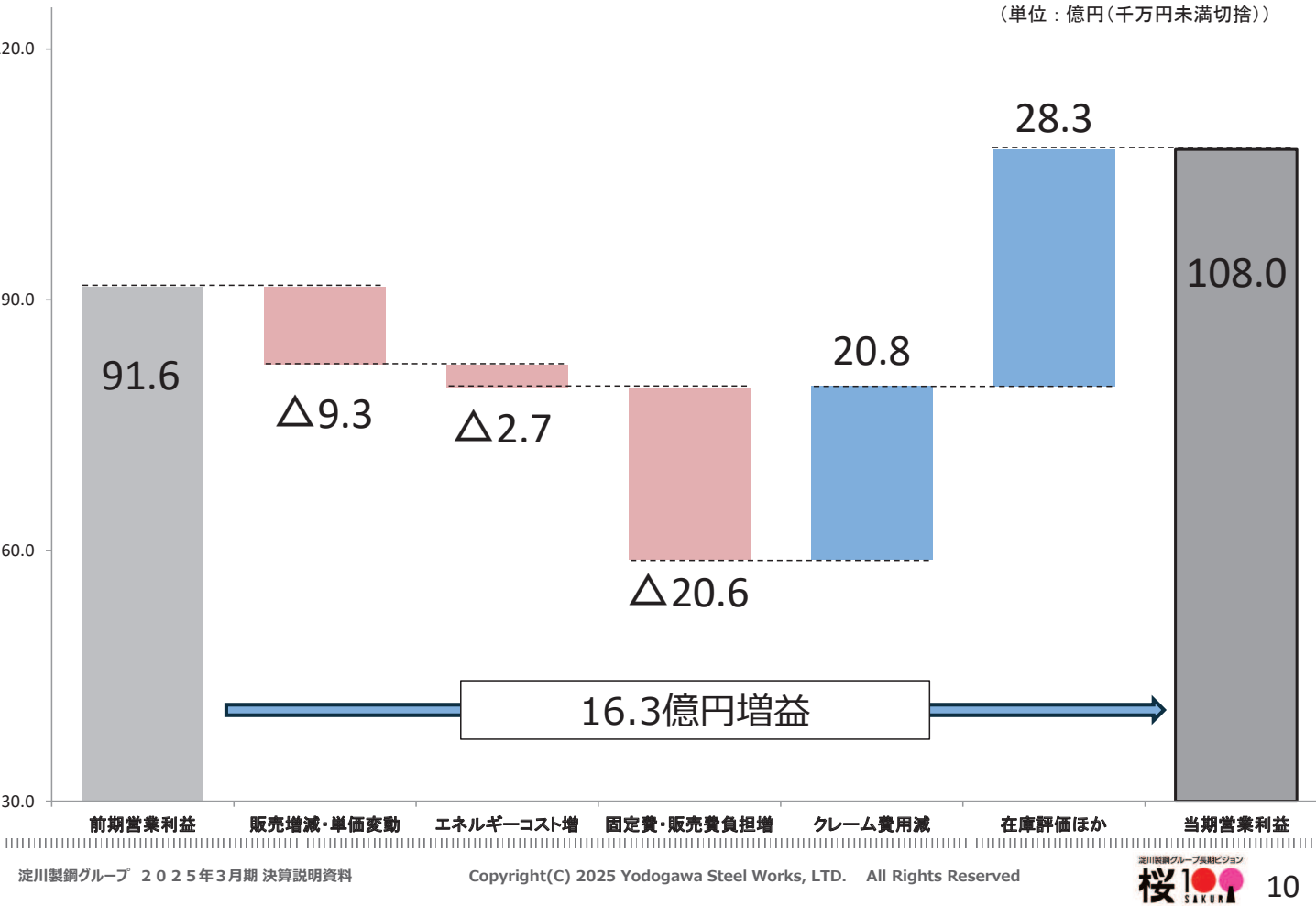


## 【営業利益 18.7億増益の主な内訳】

- 淀鋼 +16.3億 (91.6億→108.0億)  
前期に製品補償引当金を特別損失で計上したことによりクレーム費用が減少。  
また、カラー鋼板の販売量増加により増益
- SYSCO社 △4.7億 (32.3億→27.5億)  
主に台湾国内向けの販売価格が下落したことなどの影響により減益
- YSS社 +2.3億 (△7.4億→△5.1億)  
不動産不況の長期化により、業績の改善は小幅に留まる
- PPT社 +1.5億 (4.3億→5.9億)  
主力のエアコン向けの販売量の回復、スプレッドの維持により増益

# 損益増減要因分析 (連結・前年同期比)





(単位：億円(千万円未満切捨))

	売上高			セグメント利益		
	当期	前期	増減率	当期	前期	増減率
鋼板関連	1,984.6	1,940.3	2.3%	139.5	119.5	16.7%
ロール	28.6	31.2	△8.3%	0.4	0.5	△20.8%
グレーチング	32.9	34.3	△3.9%	1.0	2.0	△51.5%
不動産	13.9	12.8	8.4%	8.3	8.1	1.8%
報告セグメント計	2,060.1	2,018.7	2.1%	149.3	130.0	14.6%
その他	24.4	20.8	17.2%	5.4	3.7	44.4%
合計	2,084.6	2,039.5	2.2%	154.7	134.1	15.4%
調整額				△15.8	△13.9	—
PL計上額	2,084.6	2,039.5	2.2%	138.8	120.1	15.6%

淀川製鋼グループ 2025年3月期 決算説明資料

Copyright(C) 2025 Yodogawa Steel Works, LTD. All Rights Reserved

桜 SAKURA 11

## 【鋼板業務（日本国内）】

## ・ ひも付き（特定ユーザー向け）

建材向け：めっき鋼板は需要の低迷、安価な輸入材の流入などの影響を受け販売量減少。

カラー鋼板は既存顧客のシェア拡大や新規顧客の獲得などにより販売量増加

電機向け：エコキュートの需要が堅調に推移したことなどにより販売量増加

- ひも付きではカラー鋼板が堅調に推移した一方で、めっき鋼板の販売量が減少したことにより減収

## ・ 店売（一般流通向け）

3Q以降で荷動きが低調となるも、上期に発表した値上げ前の駆け込み需要の影響などにより前年同期比販売量は増加

- 日本国内全体ではカラー鋼板が堅調に推移したものの、めっき鋼板の販売量が減少し減収

## セグメント概況（鋼板関連事業②）

## 【鋼板業務（海外）】

## ・ 海外

**SYSCO社（台湾）**：台湾国内向け、輸出向けともに、需要の開拓などによりめっき鋼板、カラー鋼板両方の販売量が増加

- SYSCO社全体では販売量の増加により増収となるも、主に台湾国内の販売価格の下落などにより減益

**Y S S 社（中国）**：3Q以降中国国内の建築需要は僅かに回復するも、全体の需要は依然低調。めっき鋼板、カラー鋼板ともに販売量は回復せず、業績の改善は小幅に留まる

**P P T 社（タイ）**：3Q以降主力のエアコン向けの販売量が回復傾向に。  
また、スプレッドの維持に努めたことにより増益

## 【建材業務（外装建材商品・工事）】

- ・ 外装建材商品全体では、屋根材の販売量が前年並みに推移したものの、壁材の販売量が減少したことにより減収
- ・ 工事は工期遅れの影響などを受け、前年同期比減収

## 【建材業務（エクステリア商品）】

- ・ ガレージ・大型倉庫は引き続き堅調に推移
- ・ 物置は物価上昇に伴う消費意欲の低下の影響などを受け販売量は伸び悩む

建材業務全体では、外装建材商品・エクステリア商品ともに販売量がやや減少し、減収

## セグメント概況（ロール、グレーチング、不動産ほか）

## 【ロール事業】

- ・ 日本国内向け・輸出向け共に販売量が減少し、減収・減益

## 【グレーチング事業】

- ・ 販売価格は改善するも、販売量が減少し、減収・減益

## 【不動産事業ほか】

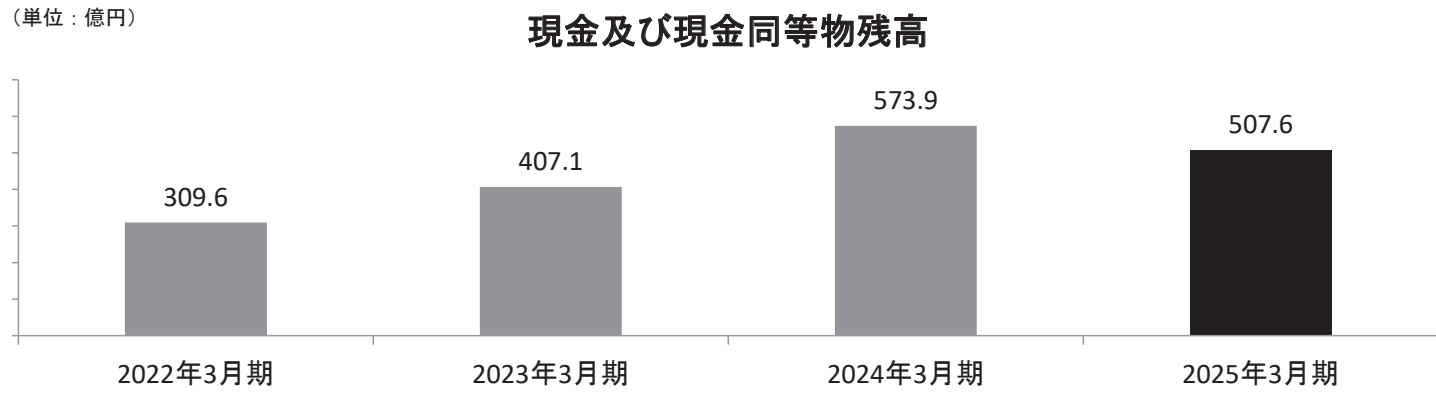
- ・ 不動産事業は売上・損益ともにほぼ前年同期並みに推移
- ・ その他事業は倉庫運送事業などの売上が回復し、増収・増益

(単位:億円(千万円未満切捨))

	当期末	前期末	増減	増減率	特記事項
総資産	2,642.5	2,658.6	△16.0	△0.6%	<資産> (固定)投資有価証券の減少など
(流動資産)	1,598.5	1,561.1	37.3	2.4%	
(固定資産)	1,043.9	1,097.4	△53.4	△4.9%	
負債	491.3	520.3	△28.9	△5.6%	<負債> (固定)製品補償引当金の減少など
(流動負債)	297.5	281.1	16.4	5.9%	
(固定負債)	193.7	239.1	△45.4	△19.0%	
純資産	2,151.2	2,138.3	12.8	0.6%	<株主資本> 当期:親会社株主純利益134.9億、 配当△70.8億など  <その他包括利益累計額> 有価証券評価差額金の減少56.2億 など
(株主資本)	1,641.9	1,565.5	76.3	4.9%	
(その他包括利益累計)	305.2	330.2	△24.9	△7.6%	
(非支配株主持分)	203.0	241.2	△38.2	△15.9%	
(BPS(円/株))	6,733.72	6,561.18	172.54		
自己資本	1,947.2	1,895.8	51.4	2.7%	
自己資本比率	73.7%	71.3%	2.4pt		

(単位:億円(千万円未満切捨))

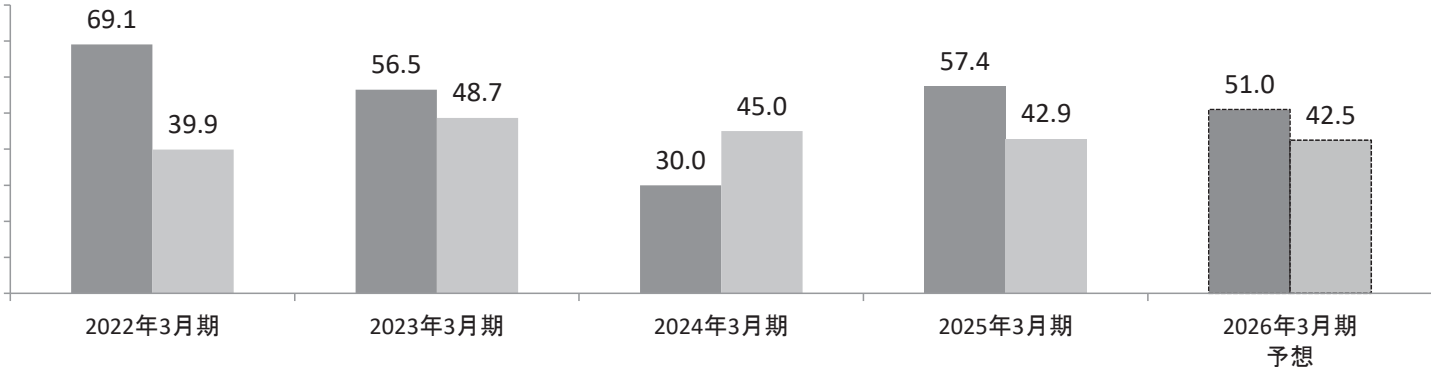
	当期	前期	前期比		特記事項 (記載金額は概略値)
			増減	増減率	
営業CF	113.1	215.2	△102.1	△47.4%	売上債権の減少、棚卸資産の増加、 製品補償引当金の減少など
投資CF	△67.3	△8.0	△59.2	—	固定資産の取得による支出の増加など
財務CF	△125.0	△53.6	△71.4	—	配当金の支払増加、 子会社株式の追加取得など
現金及び現金同等物	507.6	573.9	△66.3	△11.6%	



(有形固定資産のみ。建設仮勘定を含む資産計上ベース。単位:億円(千万円未満切捨))

	当期	前期	前期比	
			増減	増減率
設備投資(連結)	57.4	30.0	27.3	91.0%
減価償却(連結)	42.9	45.0	△2.0	△4.5%
設備投資(個別)	27.4	18.4	9.0	49.3%
減価償却(個別)	20.8	21.8	△0.9	△4.3%

■ 設備投資額    ■ 減価償却費



(単位:億円(千万円未満切捨))

	会社	案件	完成時期	総投資額 (資産計上ベース)
当期実施	淀鋼	呉工場 5号めっきライン PMポット改造	2024年度	2.5
	淀鋼	市川工場 4号めっきライン 電気品更新	2024年度	1.9
	京葉鉄鋼 埠頭	屋外クレーン更新	2024年度	3.7
今後予定	淀鋼	市川工場 酸洗ライン溶接機更新	2026年度	11.2
	淀鋼	市川工場 圧延機 主機ドライブ更新	2025年 下旬	3.9
	京葉鉄鋼 埠頭	岸壁補強工事	2026年 下旬	2.7
	SYSCO	屏南工場 太陽光発電設備	2026年 上旬	373百万NTD (約17.3)

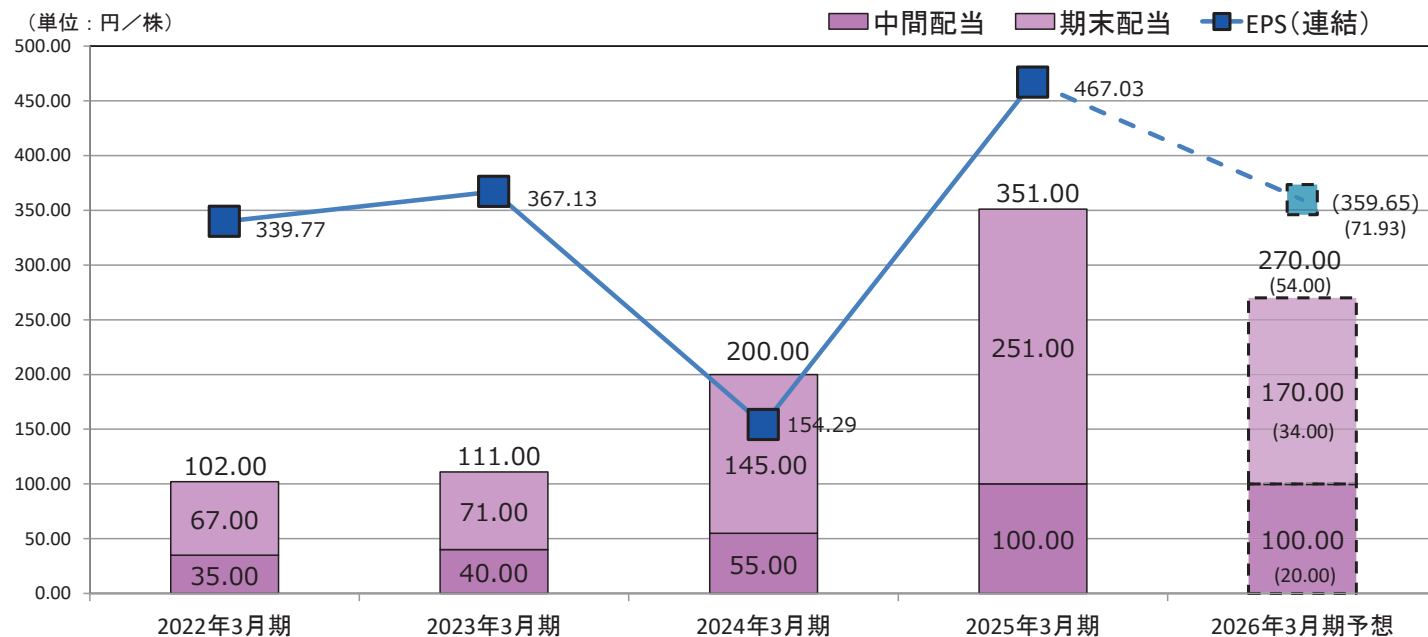
### 3 2026年3月期 業績予想

### 連結業績予想

(単位:億円(千万円未満切捨))

		2026年3月期 通期予想	2025年3月期 (前期)実績	前期比	
				増減額	増減率
連結	売上高	2,030.0	2,084.6	△54.6	△2.6%
	営業利益	114.0	138.8	△24.8	△17.9%
	経常利益	161.0	215.5	△54.5	△25.3%
	親会社株主利益	104.0	134.9	△30.9	△23.0%
個別	売上高	1,190.0	1,280.1	△90.1	△7.0%
	営業利益	76.0	108.0	△32.0	△29.7%
	経常利益	128.0	183.3	△55.3	△30.2%
	純利益	92.0	130.0	△38.0	△29.3%

- 米国の通商政策の影響による世界経済の下振れ懸念や日本国内需要の大幅な回復も見込めないことから、販売量が減少し減収減益を見込む



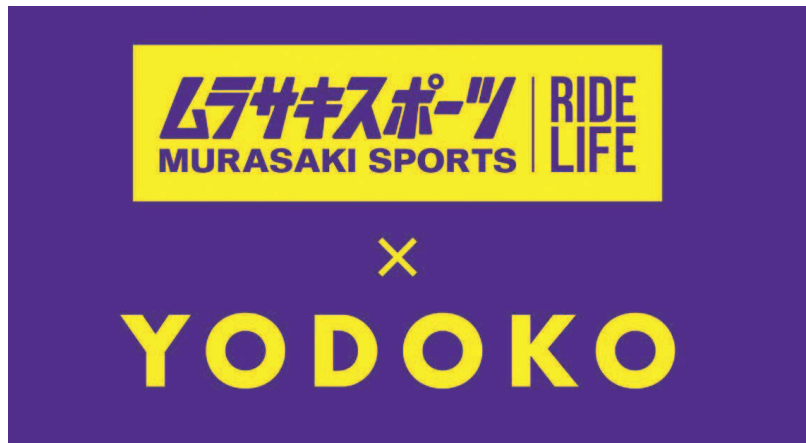
- 中間配当100円、期末配当251円 年間配当実績は351円
- 2026年3月期の配当は中間20円、期末34円 年間配当は54円を予想

## 4 トピックス

- 2025年10月1日、商号を「株式会社ヨドコウ」に変更予定  
(2025年6月開催予定の第126期定時株主総会で定款の一部変更が承認されることを条件としています。)
- 2025年1月30日、ヨドコウグループの新企業理念  
「咲かせよう。ひと、まち、みらい。」を制定
- 2025年1月30日、企業理念の刷新に伴い、新ロゴマーク  
を開発。2025年10月1日より使用開始予定



- アウトドアブランド「Coleman」とのコラボレーション商品として  
「ヨド物置エルモ Colemanモデル」および「ヨドストレージボックス Colemanモデル」を発売



- 株式会社ムラサキスポーツと「自然と遊ぶ人々のために、遊びのモノを収納する」をコンセプトにしたストレージ『KOTO OKI』シリーズを共同開発

## トピックス：「ヨド物置ブラックエスモ」発売



ウッディマロン (WM)  
※ブラックエスモ限定色



ディーブオーシャンブルー (DO)



ウッディココア (WC)



グラファイトメタリック (GM)



ウッディエボニー (WE)



ティントホワイト (TW)

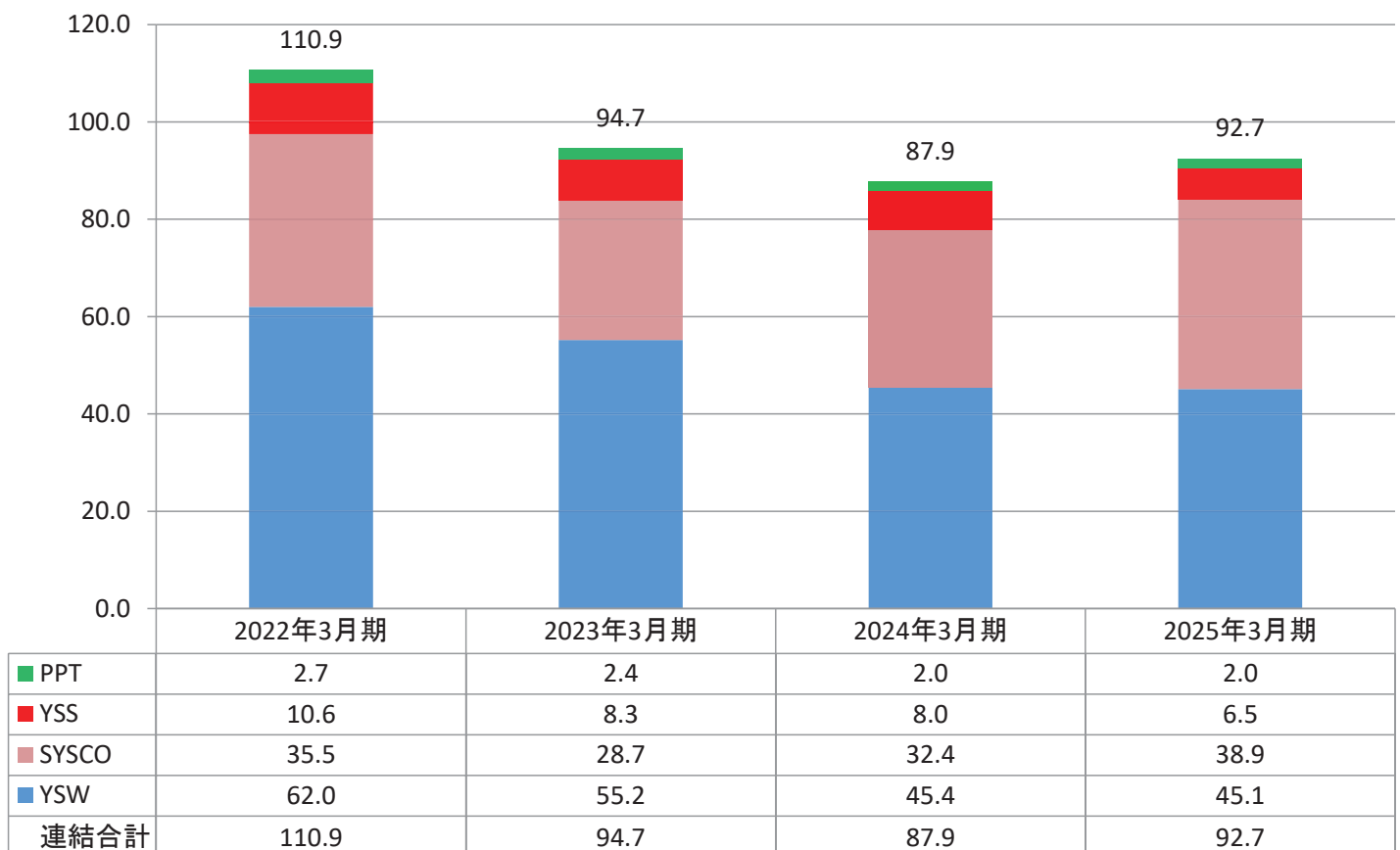
- 小型物置「ヨド物置エスモ」の本体色をブラックにしたシックな物置「ヨド物置ブラックエスモ」を1月30日より発売

## 5 参考

## 参考資料【グループ鋼板商品一級販売数量推移】

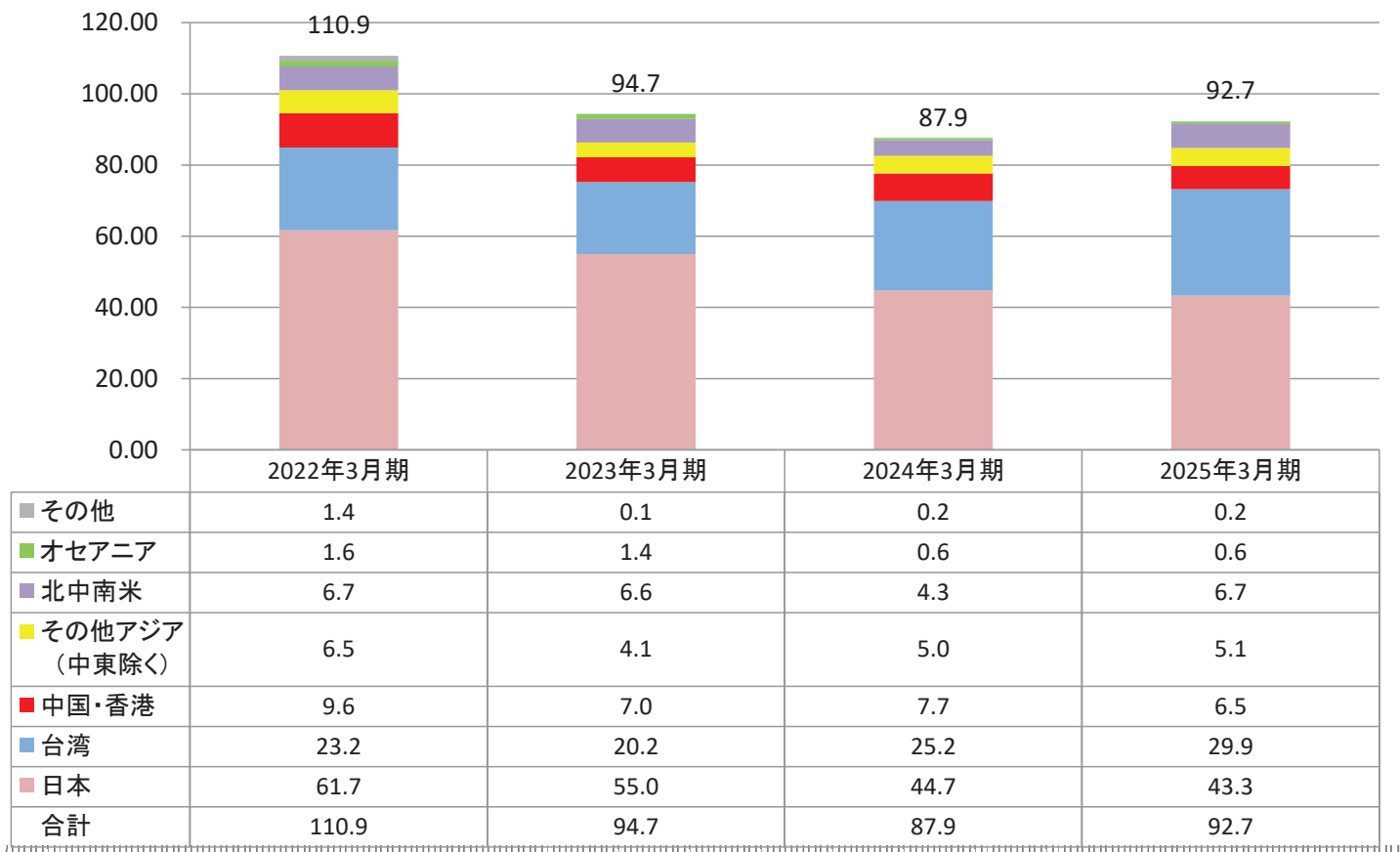
連結消去は考慮せず

(単位：万トン)



【鋼板商品の向先別一級販売量推移】連結消去は考慮せず

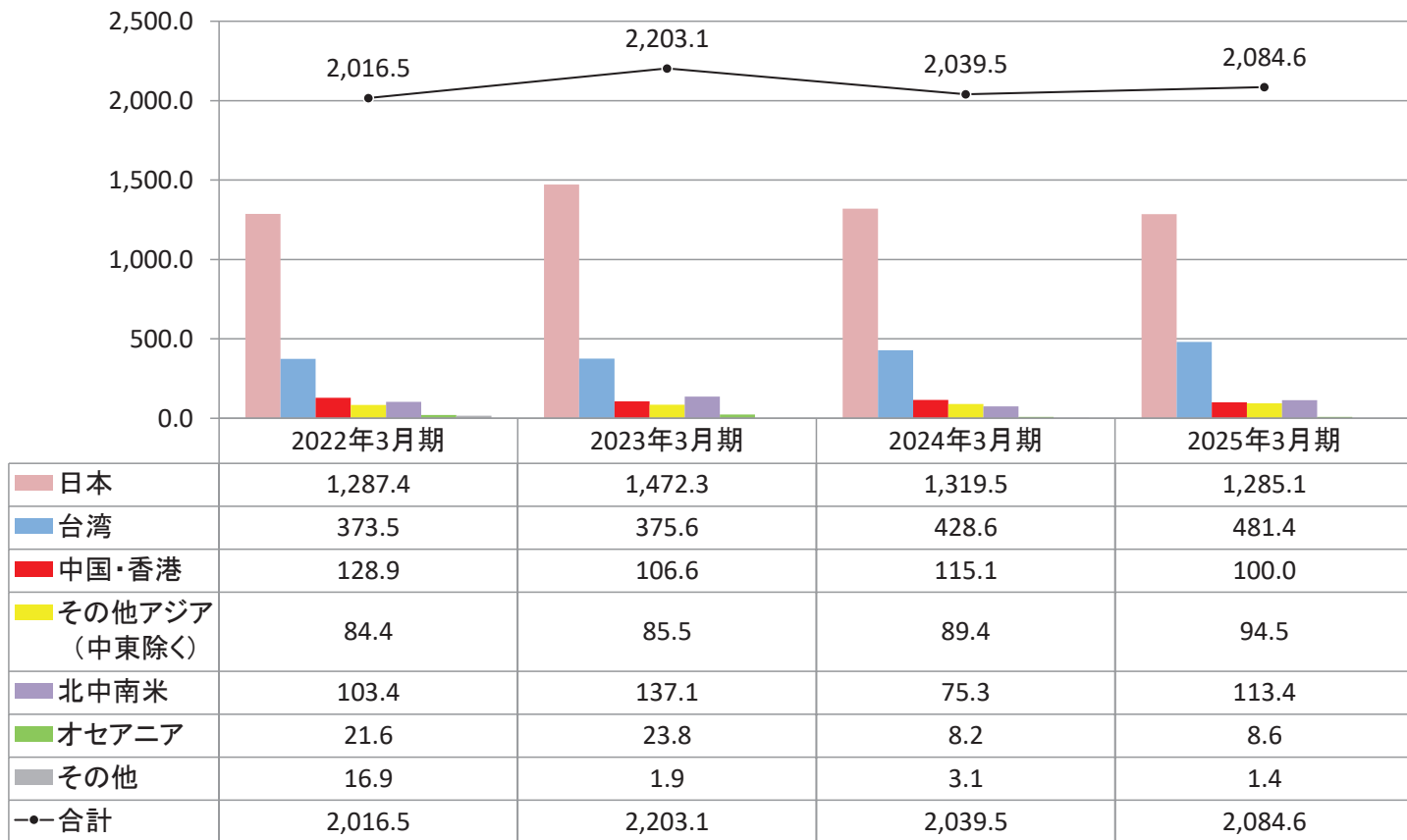
(単位：万トン)



参考資料①

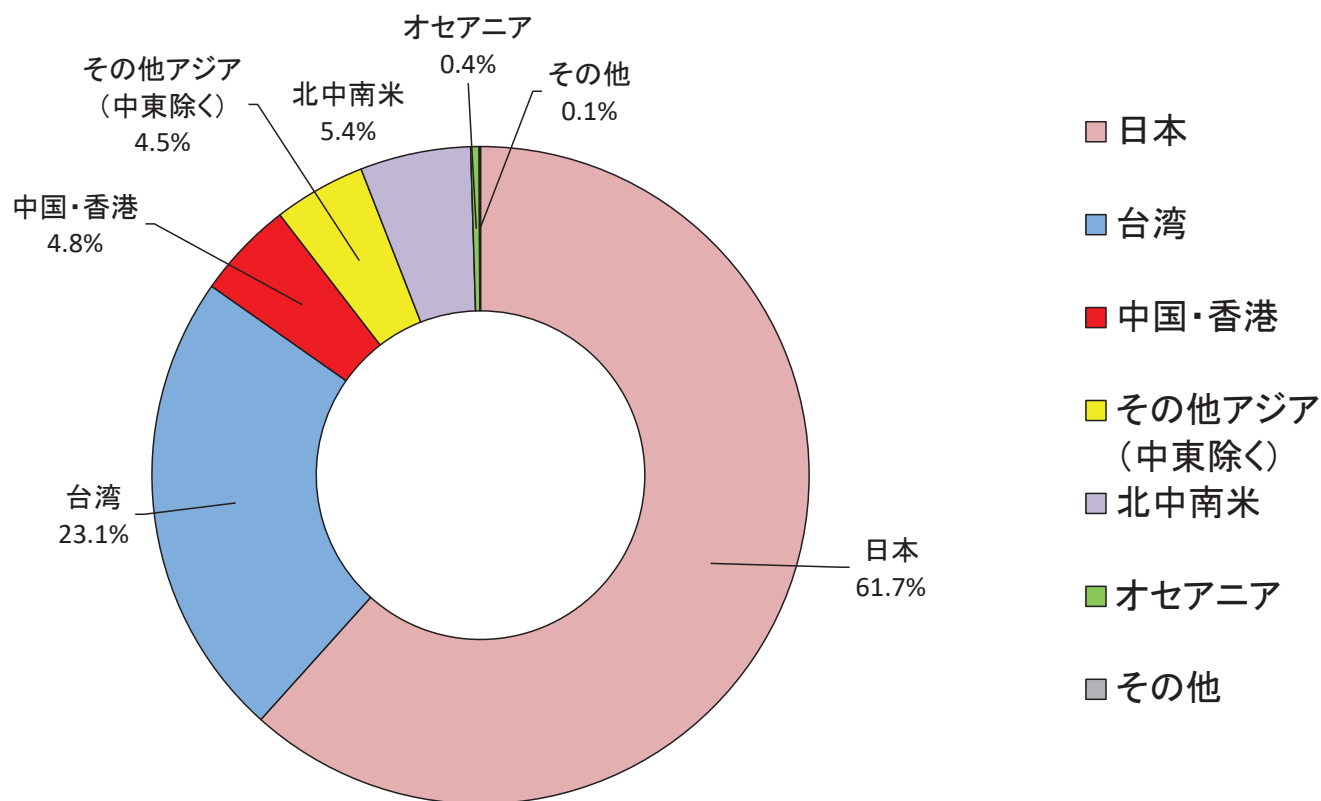
【仕向地別売上高推移】

(単位：億円(千万円未満切捨))



【仕向地別売上高比率(2025年3月期)】

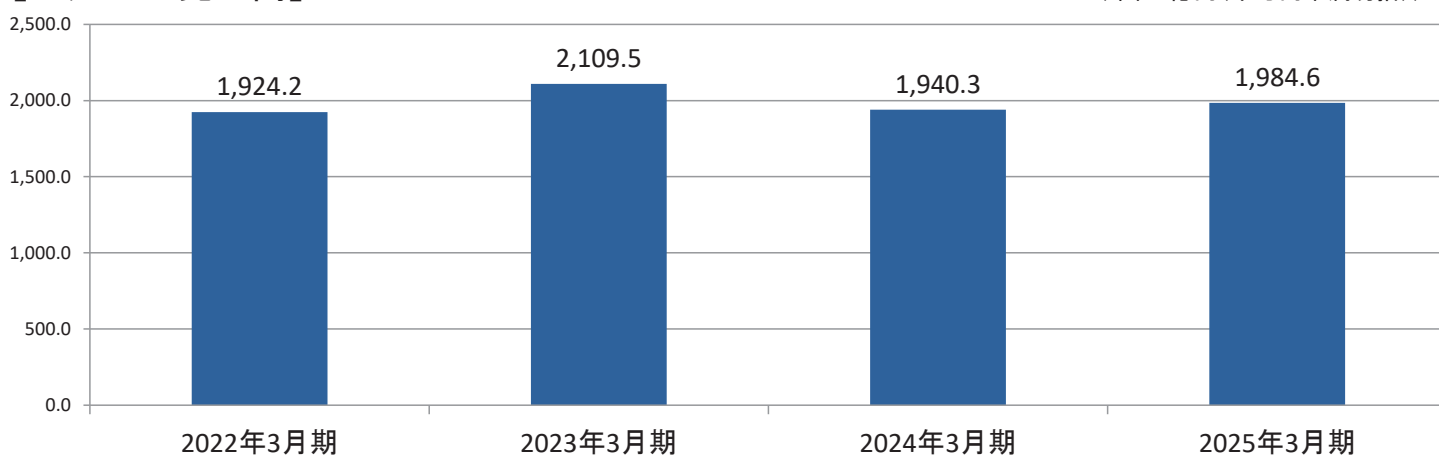
(単位:億円(千万円未満切捨))



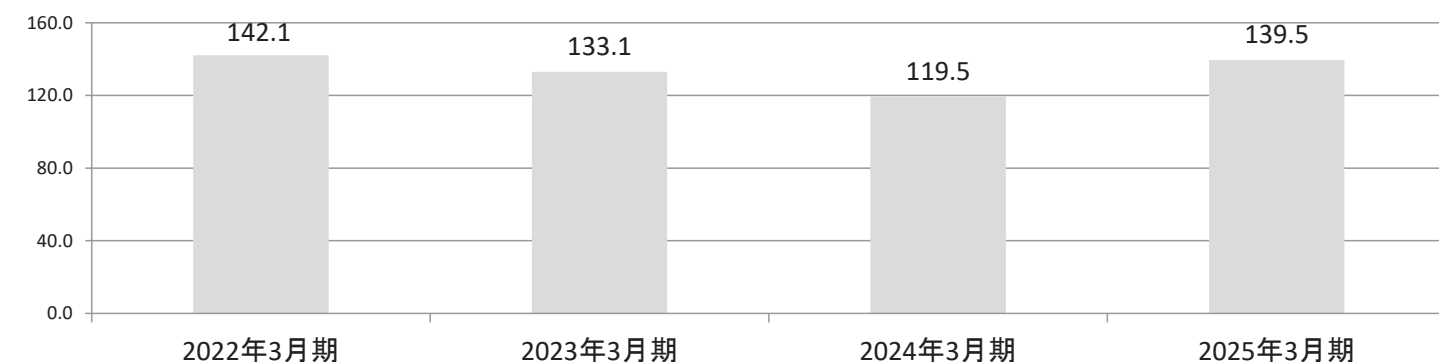
セグメント概況 (鋼板関連事業)

【セグメント売上高】

(単位:億円(千万円未満切捨))



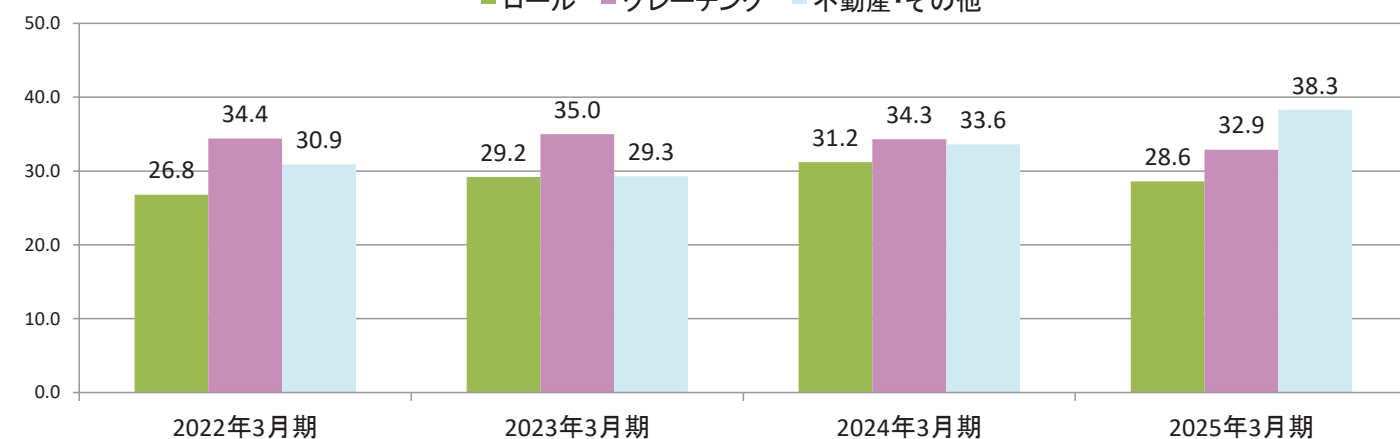
【セグメント利益】



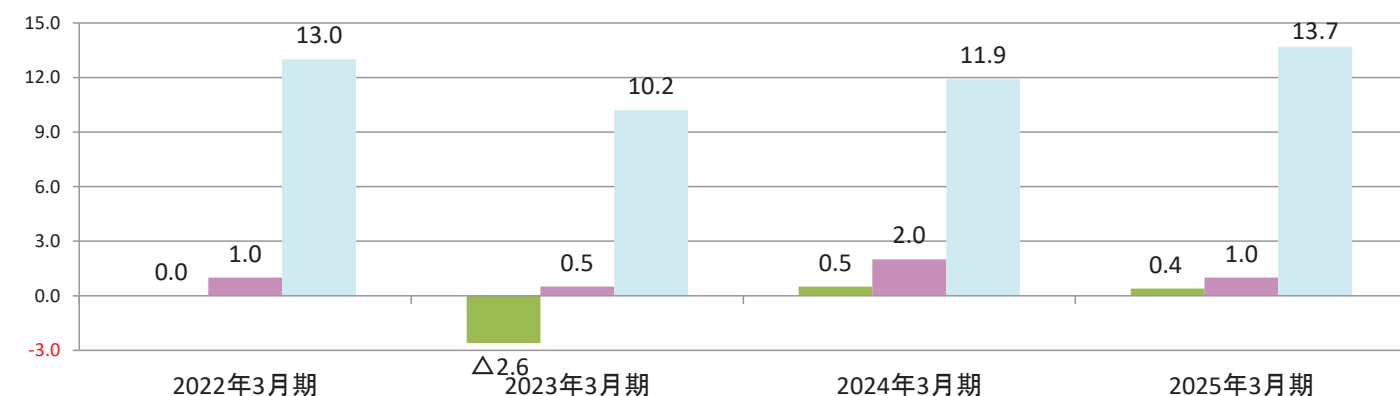
## 【セグメント売上高】

■ ロール ■ グレーチング ■ 不動産・その他

(単位: 億円(千万円未満切捨))



## 【セグメント利益】



淀川製鋼グループ 2025年3月期 決算説明資料

Copyright(C) 2025 Yodogawa Steel Works, LTD. All Rights Reserved

桜 SAKURA

34

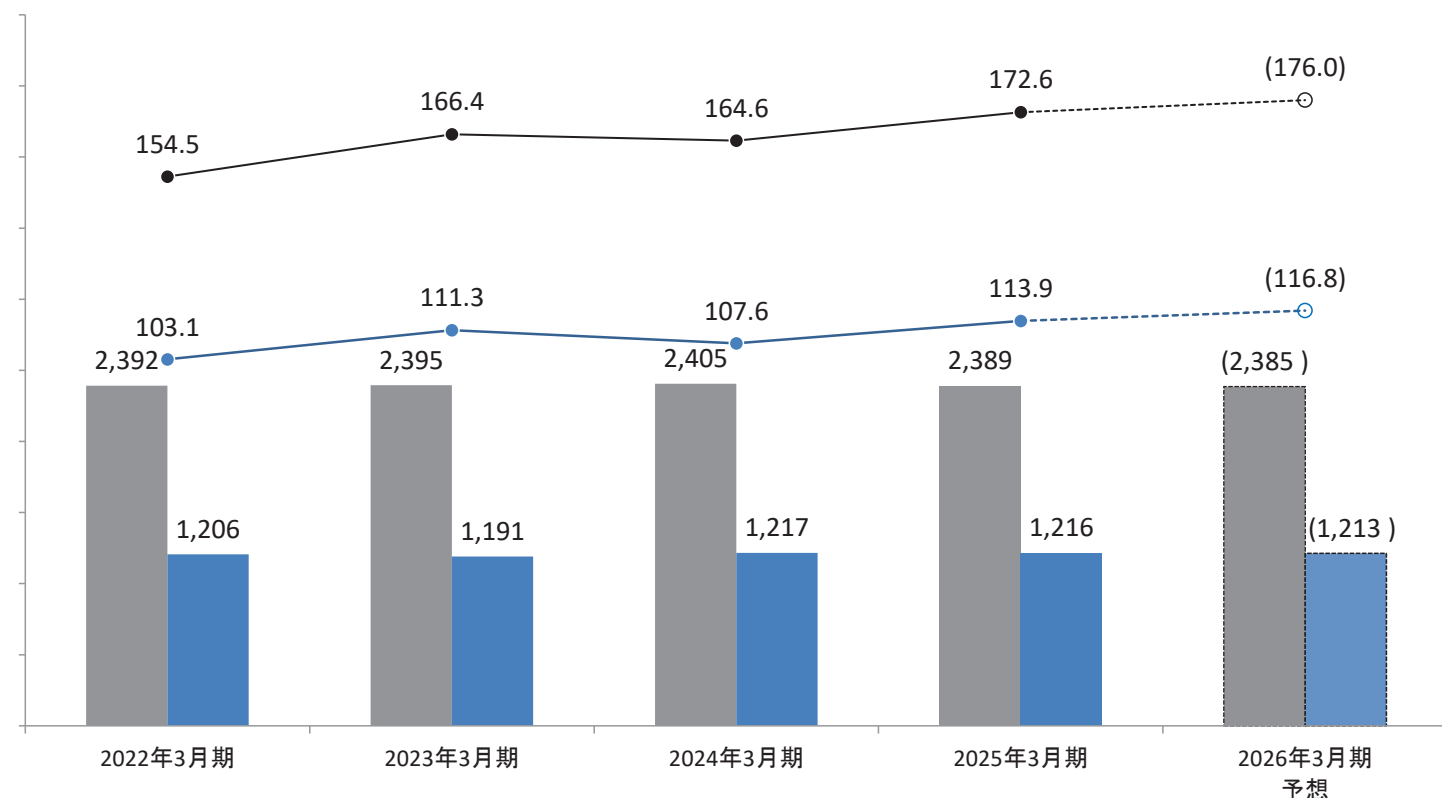
## 参考資料③

株式会社 淀川製鋼所

## 【従業員数・人件費】

(単位: 人, 億円(千万円未満切捨))

■ 従業員数 (連結) ■ 従業員数 (個別) ● 人件費 (連結) ● 人件費 (個別)



淀川製鋼グループ 2025年3月期 決算説明資料

Copyright(C) 2025 Yodogawa Steel Works, LTD. All Rights Reserved

桜 SAKURA

35

# ヨドコウ

本資料に記載されている情報には、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の将来の業績見通しに関するものが含まれていますが、これらは将来の実績を保証するものではありません。実際の業績はさまざまな要因により異なる可能性があることをご承知おきください。

# 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(アップデート)

2025年5月19日

Copyright(C) 2025 Yodogawa Steel Works, Ltd. All Rights Reserved.

## 現状分析:PBRとROEの推移

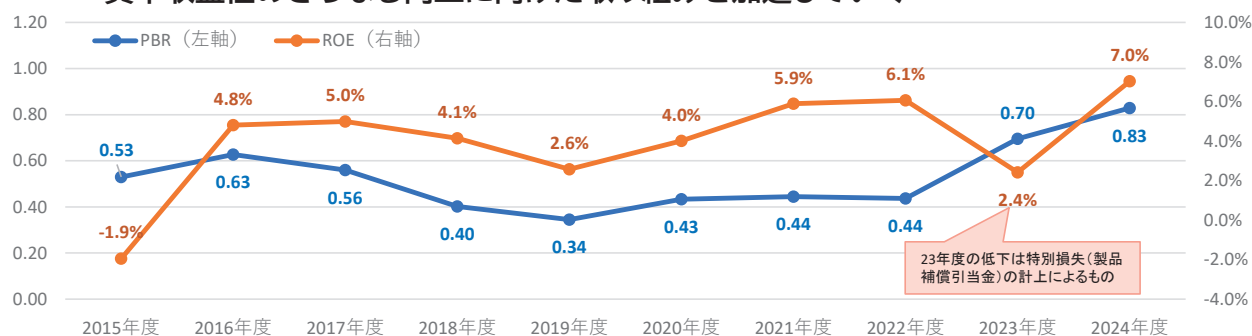
株式会社 淀川製鋼所 桜100 SAKURA

### ■ PBR : 0.83倍

⇒ 業績の伸長や株主還元の強化による株価の上昇に伴い、過去10年で最も高い水準だが、1倍割れの状況が継続している

### ■ ROE : 7.0%

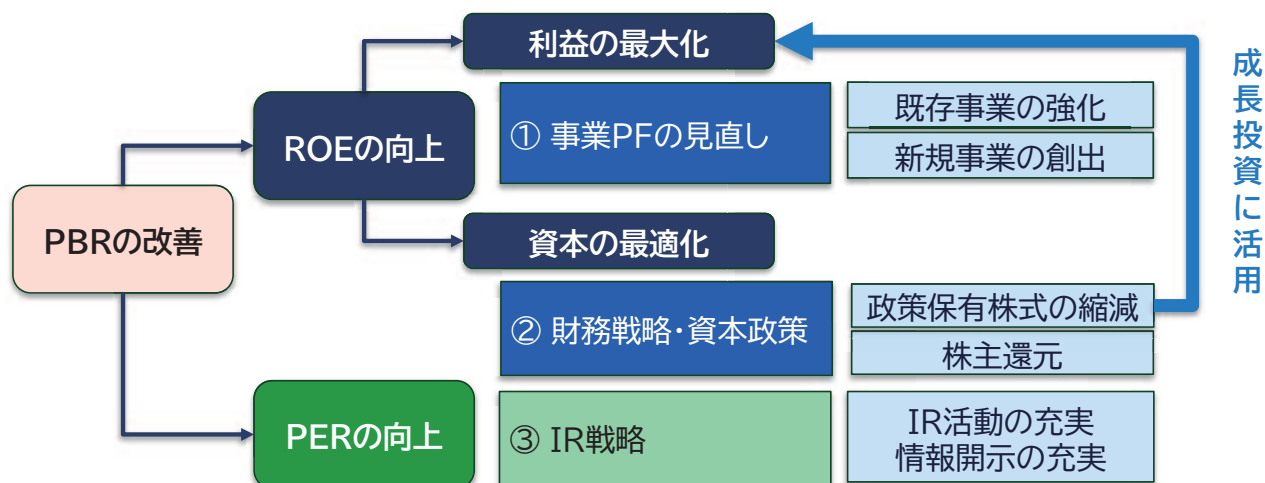
⇒ 24年度は前期比増収増益を達成し、25年度のROE目標である7%を前倒しで達成  
資本収益性のさらなる向上に向けた取り組みを加速していく



株主資本コストを十分に上回る資本収益性の達成が最優先課題

# PBR改善に向けた基本的な考え方

- 事業ポートフォリオの見直しによる利益の最大化と資本政策の見直しによる資本の最適化を同時に実現することで、株主資本コストを上回るROEを目指す
- 25年度のROE目標 7%は株主資本コストを十分に上回る水準ではないと認識、26年度からの第4次中計期間にROE8%以上の実現を目指す



2

## 持続的成長と中長期的な企業価値の向上

### 進捗状況

#### ① 事業ポートフォリオの見直し

##### ■ 既存事業の強化

- 競争力強化に向けた設備投資、CCCの短縮(在庫削減等)による効率化
- 事業PF改革(不採算事業の見極め、グループ再編等)の実行を見据えた検討

- ✓ 主要な海外連結子会社である台湾SYSCO社の株式追加取得により、当社の保有比率が52.1%から63.5%に上昇(24年度実績ベースで約3億円の増益効果)
- ✓ 不採算事業であったエンジニアリング事業からの撤退、中国YBMH社(非連結子会社、建材製品の製造・販売)の解散を決定、事業PF改革の実行を見据えた具体的な検討を加速

3

## ■ 進捗状況

### ➤ ① 事業ポートフォリオの見直し

#### ■ 新規事業の創出

- 周辺事業を中心としたアライアンス強化や積極的なM&Aの検討・実行

- ✓ JFEスチール株式会社、JFE鋼板株式会社との建材薄板分野における戦略的アライアンスの検討を開始

- 各社の技術力、製造能力、立地を活かした事業の協業検討
  - ・ 各社の製造ラインを活用した素材の相互供給
  - ・ 高付加価値めっき鋼板の開発における連携 等
- 目的：競争力の確保、国内建材薄板市場におけるプレゼンスの維持拡大

4

## ■ 進捗状況

### ➤ ② 財務戦略・資本政策

#### ■ 政策保有株式の縮減

【中計2025期間の縮減計画】

- 期 間：2023年4月～2026年3月(3年間)
- 縮減計画：2023年3月末の保有残高(280億円)に対して30%相当を縮減

- ✓ 2023年3月末B/S計上額を基準とした23～24年度の2年間の縮減額は43億円、縮減率は15.3%

金額単位：億円

23年3月末	26年3月末	目標(3年間)		実績累計(23.4～25.3)	
実績	見込み	縮減額	縮減率	縮減額	縮減率
280	196	84	30.0%	43	15.3%

5

## 進捗状況

### ② 財務戦略・資本政策

#### ■ 政策保有株式の縮減

##### 【中長期的な縮減方針】

- 連結純資産に対する政策保有株式(B/S計上額)の割合を10%未満とする方針

- ✓ 25年3月末の連結純資産に対する政策保有株式の保有割合は13.2%(前期比0.8%減)
- ✓ 政策保有株式の縮減は進捗しているが、株式市場の上昇に伴い政策保有株式のB/S計上額の減少幅は限定的

金額単位: 億円

	23年3月末	24年3月末	25年3月末
政策保有株式保有残高 (B/S計上額)	280	299	284
連結純資産	2,019	2,138	2,151
連結純資産比率	13.9%	14.0%	13.2%

6

## 進捗状況

### ② 財務戦略・資本政策

#### ■ 株主還元(配当政策)

- 現行の中計期間中は、年間配当金200円以上を維持した上で、連結配当性向75%以上の株主還元を実施する

- ✓ 現行の株主還元方針である連結配当性向75%以上を堅持し、2024年度は前期比151円増配の1株当たり351円の配当(連結配当性向75.2%)を実施

7

## ■ 進捗状況

### ➤ ② 財務戦略・資本政策

#### ■ 自己株式の消却

- 自己株式の保有上限基準は、発行済株式総数の10%未満を目途とする
- 自己株式300万株(消却前の発行済株式総数に対する割合8.61%)を2024年5月31日に消却予定



- ✓ 2024年5月31日に自己株式300万株の消却を実施(自己株式保有比率 9.2%)

## ■ 進捗状況

### ➤ ② 財務戦略・資本政策

#### ■ 株式分割の実施

- ✓ 投資単位の引き下げにより、投資家の皆様にとってより投資しやすい環境を整え、株式の流動性の向上と投資家層のさらなる拡大を図る

分割比率

1 : 5

分割後  
投資単位

約11万円

基準日 : 2025年6月30日

効力発生日 : 2025年7月 1日

※25年3月期末の株価5,590円で算定

- ✓ 分割影響考慮後の配当方針 : 現行の中計期間中は、年間配当金40円以上を維持した上で、連結配当性向75%以上の株主還元を実施する

## 進捗状況

### ③ IR戦略

#### ■ IR活動・情報開示の充実

- 決算説明会、投資家面談の内容充実
- 各種IRツールを通じた情報提供の充実
- 適時開示資料の英文開示対応

#### ✓ 統合報告書の発行

- 当社グループの企業価値を持続的に向上させるための考え方や取り組みについて、ステークホルダーの皆様にご理解をより深めていただくことを目的に、本年中の発行を予定

#### ✓ 投資家との対話機会のさらなる充実

- 積極的な投資家面談の実施、能動的なSRミーティングの開催

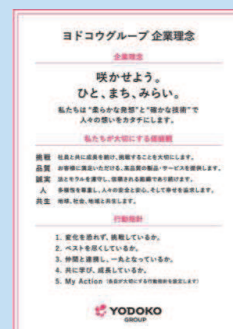
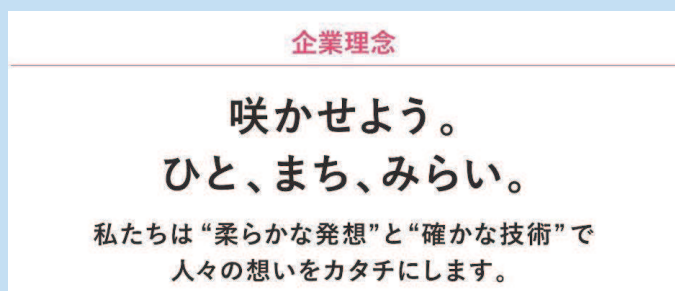
10

## 進捗状況

### 企業価値向上に向けた取り組み

#### ■ 企業理念の刷新

- ✓ 2025年1月30日の創立90周年を機に、変化に対応できる強い企業・組織へと変革し、創立100周年、さらにその先の未来に向けて挑戦し続けていくための羅針盤となるようヨドコウグループ企業理念「咲かせよう。ひと、まち、みらい。」を制定



11

## 進捗状況

### 企業価値向上に向けた取り組み

#### ■ 商号変更、新ロゴマークの制定

- ✓ 企業理念の刷新に伴い、商号を「淀川製鋼所」から長年愛称として親しまれてきた「ヨドコウ」への変更を決定
- ✓ 「咲かせよう。ひと、まち、みらい。」を象徴するロゴマークを制定、商号とともに2025年10月1日から変更予定



#### 【新ロゴマーク】

